

JOB REPORT

青函トンネル入口に音センサー噴水

世界最長の海底トンネル入口に、全国で初めて列車通過音で作動する音センサー方式による噴水が完成。

この噴水は青函トンネルの青森県側入口にあたる今別町が町おこしの一環として建設しているトンネル広場の目玉施設となる。広場は自治省のまちづくり特別対策事業と県の戦略プロジェクト事業の指定を受けている。

噴水はトンネル内に設置した音センサーによって列車が接近するのを感知して作動、列車の通過時に合わせて水の造形を乗客や広場の観光客に見せる仕組み。線路の南側約200㎡の面積に4つの樹氷噴水、その左右に透明なガラス棒状に弧を描くクリスタル噴水、そして滝が設置されている。列車が近づくと滝、樹氷噴水の水量が多くなり、クリスタル噴水が左右から飛び出してアーチを作る。これは本州と北海道のかけ橋を意味する。

トンネル広場の総面積は5,900㎡で、広場には噴水のほか、トンネル撮影台、休憩施設、駐車場などを設置して集客効果を上げ、町の活性化に大いに役立つ施設となっている。

メイン施設の噴水は7時から21時まで見られ、夜間はライトアップされ、多くの人々の目を楽しませてくれる。



(施工中)

青函トンネル入口広場平面図

